

地域再生計画

「人にやさしく、安全で元気に暮らせるまちづくり計画」中間評価 議事録

日時：平成 30 年 8 月 27 日（月） 10：00～

場所：岡崎市役所 東庁舎 6 階 601 号会議室

（出席委員）

愛知産業大学	堀越 哲美 氏
日本政策投資銀行	小沢 良平 氏
名城大学	松本 幸正 氏

（欠席委員）

名古屋大学	福和 伸夫 氏
-------	---------

（事務局）

総合政策部企画課副課長	岡田 晃典
総合政策部企画課係長	鈴木 昌幸
総合政策部企画課事務員	藤井 聖士
土木建設部道路建設課副課長	寺田 享史
土木建設部道路建設課係長	大澤 厚都
土木建設部道路建設課主任主査	三島 久美子
土木建設部道路維持課係長	山本 隆司
土木建設部道路維持課主任主査	津田 勝義
経済振興部林務課副課長	成瀬 俊彦
経済振興部林務課副主幹	勝田 隆文
経済振興部林務課係長	鈴木 久美子

（傍聴人）

なし

事務局	（「人にやさしく、安全で元気に暮らせるまちづくり計画」の、指標、実績、指標達成状況、評価について説明。）
松本委員	今回のテーマが「人にやさしく、安全で元気に暮らせるまちづくり」という事で、特に耐震性に問題のある橋梁を減らす事業は非常に大事だと思う。最終年度の目標達成が難しいとのことだが、ここはしっかり進めていくべきだ。市道の拡幅整備は私権者の方々の理解を得る必要があるため思う様に進まないことは理解できるので、橋梁耐震性の方がやり易いのではないか。事業費を見ると計画と実績が大きな乖離があるので、これが目標未達の一つの要因だろう。市費のみで進めていくのは難しいので、国の協力を得ながら早急に目標・計画を達成できるようにしていただきたい。
小沢委員	指標3の橋梁の耐震化が進まない原因は、やはり予算上の問題か。
事務局	橋梁の耐震化には高額な費用がかかるため、国庫補助のつかない部分は可能な範囲で先送りとした。また橋梁の工事は水がある程度少ない時期に工事を行う必要があり、長寿命化対策を優先して行っている。
堀越委員長	他の委員の方がおっしゃったように、橋梁の耐震化の話が一番重要ではないか。
事務局	橋梁の耐震化について計画を越してでも優先的に考えていく旨を、今後の方針に書かせていただく。
小沢委員	指標1と2については中間目標値の設定がないとのことだが、最終目標の達成見込みはどうか。
事務局	歩道整備は満足度向上に資する部分があるので、歩道整備を優先して行いたいと考えている。そのため指標1は最終目標を達成できる見込みである。 指標2は用地交渉が難航しているので、達成が難しいと考えている。藤田保健衛生大学病院開院に向けた道路網整備や林道整備等の他の事業と絡めながら、指標の向上に向けて取り組んでいく。
松本委員	林道整備事業について間伐促進を目的に事業を進めていると思うが、現実的には林業離れや世代交代等の理由で中々進まないだろう。作業道の開設や木材製品の新規利用や販路拡大等の対策を行うということだが、それが目標達成に繋がるのか見えにくい。
事務局	他市では地域に林業を実施する主体を新たに設け、その主体が事業を実施していく取り組みが大きな成果をあげている。その事例を本市でも取り入れ実施していく準備をしている段階だ。そのためこの事業の終期である平成31年度までにどれだけの効果があげられるかどうかは不透明である。

堀越委員長	水源林対策事業について実績が年々下がっているが、これは対策が終わってきたということか。
事務局	実績が下がった理由は事業が無くなっている訳ではなく、様々な補助金があるのでその中から林業者が選択をしているためである。
小沢委員	林業の振興について年間450haの目標を掲げているが、過去の実績に囚われずに最終年度で最大の投資効果が上がるように努めて欲しい。
堀越委員長	地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況について、現在指標を一つ設定しているが、他の指標は何かあるか。例えば歩道を整備するときにブロックや植栽を取り除いているが、それらの再利用状況等について指標を設定すれば事業の波及効果も確認できるのではないか。
松本委員	歩道整備の波及効果について、幅員が十分あるとバス停にベンチや上屋を設置できる。これは公共交通事業にとっては非常にありがたいので、そういう点も指標に入れられると良い。
事務局	現在歩道の整備では、段差を無くすことと幅員を確保することに着目して整備をしている。その中で植栽を撤去することは確かにある。ただそういう木は大きいものが多く、再利用は難しく処分している状態だ。低木であれば市が管理している土地に仮置きしている。 これらを波及効果として設定できるか、現場の意見も踏まえて検討する。
堀越委員長	その他、本日の議事以外でご意見などあれば、ご発言をお願いしたい。
小沢委員	最近地震や台風等の過去の常識が当てはまらないような異常気象が起こっているので、その点も踏まえて防災講習を行って欲しい。
松本委員	間伐が進まないのは防災の観点から心配だ。木材を地域で使っていくような仕組みづくりが大事ではないか。オーストリアでは林業が一時期衰退していたが、今はエネルギーへの活用が増え非常に林業が盛んになり、林業に従事する若者が増えている。燃えない木材等の新しい材料を作っているところもあるので、そのような工場を岡崎にも作り林業を活性化させて欲しい。 耐震化工事によって安全性が高まったことは、住民にしっかり伝えて欲しい。そうすることで予算を投じやすくなり住民の意識も高まっていくだろう。
堀越委員長	以上で評価委員会を終了する。また本日の審議を踏まえて事務局に中間評価調書を修正いただき、その内容については委員長の一任とさせていただきます。

【結果】

この中間評価案が妥当であることを判断する旨、委員一致で採決された。